

人はなぜ間接的要求をするのか

1721079 川野綾華

Key words 間接的要求, ポライトネス理論

目的

間接的要求は、字義的な意味と発話者の意図が異なる要求として定義されている(平川・森永, 2013)。従来、間接的発話の使用については、ポライトネス理論(Brown & Levinson, 1987)に基づいた説明が一般的であり、利他的な目標によるものとされていた。しかし、その後の研究では、むしろ利己的な目標で間接的要求を使用していることが示唆されており(平川・深田・塚脇・樋口, 2012)、機能的な観点からみると、どちらも要求場面における最善な方法とは言えないことが示唆されている(平川・森永, 2014)。以上のように、未だ間接的要求を使用することの理由は明らかになっていない。そこで、本研究では、直接的要求と比較した場合の間接的要求の優位性と、どのような場合に直接的要求よりも間接的要求が好まれるのかを検討した。

方法

調査参加者 調査参加者は、大分大学の学生及び広島修道大学の学生150名(男性60名, 女性90名。平均年齢20.52歳, $SD=0.93$)であった。

手続き Googleフォームで作成したWebアンケートを用い、講義中に参加者を募集した。

質問紙の構成 調査参加者は性別、年齢などの個人属性に関連する質問項目に回答後、要求場面を想定し、要求方法(直接的・間接的)と要求の重さ(軽い・重い)を操作したシナリオを提示し、気分調査票(坂野他, 1994)、要請者への印象(平川, 2016)、要求の承諾可能性、対人距離間、青年版社会的距離尺度(肥田・石川, 2018)、印象管理(平川他, 2012)、人から頼まれた際に否定的・肯定的に感じる程度(平川, 2016)、拒否回避欲求尺度(小島・太田・菅原, 2003)、間接的要求の解釈・使用傾向(Holtgraves, 2017)の質問項目に回答した。

結果

尺度の分析 ポジティブ気分($\alpha=.82$)、ネガティブ気分($\alpha=.81$)、要請者への印象($\alpha=.81$)、印象管理($\alpha=.90$)、拒否回避欲求尺度($\alpha=.90$)、青年版社会的距離尺度($\alpha=.86$)は、それぞれ先行研究と同様に、1因子構造を採用して、平均値で得点を算出した。なお、本研究で示す社会的距離は、回答者とシナリオ上の人物との関係を見積もらせた

「対人距離間」を指標とした。間接的要求の解釈・使用傾向については、最尤法プロマックス回転による探索的因子分析を行った結果、2因子構造が抽出され、「深読み($\alpha=.83$)」、「間接使用($\alpha=.81$)」と命名した。

要求方法や要求の重さが受け手の気分および承諾可能性に及ぼす影響 シナリオ時に感じる気分を従属変数とした重回帰分析の結果、ネガティブ気分において要求方法に有意な正の標準回帰係数が認められた($R^2=.35, \beta=.21, p<.00$)。また、ポジティブ気分($R^2=.17, \beta=-.22, p<.01$)、承諾可能性($R^2=.25, \beta=-.16, p<.00$)においては、要求の重さに有意な負の標準偏回帰係数が認められた。

Table 1 要求方法や要求の重さが受け手の気分および承諾可能性に及ぼす影響

変数名	ネガティブ気分 β	ポジティブ気分 β	承諾可能性 β
性別 (1=男性, 2=女性)	-.08	-.16	.11
年齢	.04	.07	.11
要求方法 (0=間接, 1=直接)	.21 **	-.01	.03
要求の重さ (0=軽い, 1=重い)	.10	-.23 **	-.16 *
頼み事嫌	.45 **	-.16	-.26 **
頼み事嬉しい	-.04	.16 **	.19 *
印象管理	-.13	.04	.03
深読み	-.13	.01	.09
間接使用	.10	.08	.03
拒否回避欲求	.08	.14 +	.12
要求の重さ*要求方法	.14 *	.04	-.02
R^2	.35 **	.16 **	.25 **

** $p < .01$, * $p < .05$, + $p < .10$

考察

本調査の結果から、直接的要求時よりも間接的要求時のほうが、受け手のネガティブ気分は低いことが明らかとなった。この結果から、少なくとも直接的要求と比較した場合は、間接的要求には他者配慮機能があることが推測できる。また、要求が軽い場合は受け手のポジティブ気分および承諾可能性が高まるという結果や、要求が重い場合に直接的要求をすると、ネガティブ感情が高まるという結果から、要求場面において人は、心理的な負担よりも物理的な負担を避ける傾向にあることが考えられる。

引用文献

- 平川 真・森永 康子 (2013). 間接的要求の使用に及ぼす状況要因の影響 対人コミュニケーション研究 1, 39-53.
Brown, P., & Levinson, S. (1987). Politeness: Some universals in language usage. New York: Cambridge University Press.